

県人会 だより



令和4年1月号
ひろしま福島県人会

(いわき市
白水阿弥陀堂)

謹賀新年

本年もよろしくお願いたします。
昨年、一昨年とコロナ化で活動休止状態が続きました。
今年はいつもの年になるよう願うばかりです。
会員の皆様のご多幸・ご健勝をお祈りいたします。

● 駅伝は応援自粛

2021年11月8日付で駅伝競走大会事務局長名より下記のようなお願い文が届きました。
天皇盃 第27回都道府県対抗男子駅伝競走大会は1月23日平和記念公園前をスタート・フィニッシュとして開催されますが新型コロナ感染防止の観点から、沿道の観戦自粛や国際会議場を含むスタート・フィニッシュ地点で大規模な入場制限を行うなど例年と異なる運営となります。毎年、選手団に温かい声援をいただいている皆様には、大変心苦しいですが、今大会の実施について、ご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

①沿道での応援自粛

大会当日はスタート・フィニッシュ地点や沿道での応援を控えていただき、テレビ・ラジオでの応援をお願いいたします。

②選手団の出迎えや慰労会などの自粛

選手団には開催前後2週間の健康管理や来広時の陰性証明書などをお願いする予定です。今回は選手村や国際会議場内での激励や大会終了後の慰労会など、選手団との接触は出来るだけ控えさせていただきますよう、お願いいたします。(事務局よりの要請概要)

上記の事務局からの要請を受けまして1月9日(日)蔵王で役員会を開催・対応を検討し、ふくやま福島県人会とも連絡を取り、**出迎え、歓迎会は中止、沿道での応援は自粛を決めました。**加えて福島県選手団の皆様には健闘を祈願して「祈御健闘 寸志」をふくやま・ひろしま県人会の連名で送ることを決めました。



写真は2019年1月20日優勝 祝勝会の集合写真

第27回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会 福島県選手団

団 長	高萩 孝平	(福島陸上競技協会副会長)	
副 団 長	三浦 武彦	(福島陸上競技協会理事長、前監督)	
監 督	安西 秀幸	(株式会社 安西商会)	
コ ー チ	松田 和宏	(学法石川高校教員)	
コ ー チ	佐藤 修一	(田村高等学校教員)	
支援コーチ	菅野 靖史	(帝京安積高等学校教員)	
支援コーチ	武石 昌之	(信夫中学校教員)	
支援コーチ	角田 一昭	(高田中学校教員)	
トレーナー	桑井 太陽	(サンイリオス桑井鍼灸治療院)	
マネージャー	小泉 元	(いわき翠の杜高等学校教員)	
選 手	◎*今井 正人	(トヨタ自動車九州株式会社)	(原町高卒)
	高槻 芳照	(東京農業大学2年)	(学法石川高卒)
	松山 和希	(東洋大学2年)	(学法石川高卒)
	山口 智規	(学法石川高等学校3年)	
	藤宮 歩	(学法石川高等学校3年)	
	山崎 一吹	(学法石川高等学校2年)	
	大湊 柊翔	(学法石川高高等学校2年)	
	吉田 遼太郎	(高田中3年)	
	安濃 佑真	(白河南中3年)	
	増子 陽太	(鏡石中2年)	

◎キャプテン *ふるさと選手

●ビデオレターを作成 全国うつくしま県人会交流会延期で

「第5回全国うつくしま県人会交流会」は令和2年に関西福島県人会において開催される予定でしたがコロナ禍で1年延期され、令和3年度も再延期されて令和4年度に関西福島県人会で開催されることになっています。交流会が2年延期されたことから「各県人会からのメッセージ動画作成」し配布すしまずとの連絡が関西福島県人会よりありました。

当県人会では「メッセージ動画作成要領」に従って9月23日（水）秋分の日に広島であることがよくわかる平和公園に有志が集合し、ボランティアで平和公園を案内している内藤達郎さんに依頼して散策の様子や他県人会へのメッセージを中本副会長の企画で収録し関西県人会へ送りました。

また10月20日（水）には関西福島県人会の事務局を代行している福島県大阪事務所の山口所長と佐藤主事が来広し最終打ち合わせをしました。ビデオレターは総会等の会合の時ご披露します。



● 「ふくしま原発始まり物語」

試写会に参加しました

11月10日（水）18：00～広島市立大学で開催された「ふくしま原発はじまり物語」の試写会に参加しました。試写会は若林真一学長の司会で上映の主旨説明、紙芝居作家いくまさ鉄平さんの制作主旨説明、上映、いくまさ鉄平さんと佐藤 優さんの対談の流れで進められました。県人会からは4名が参加しました。

若林学長・・・広島市立大学では月1回のペースで課外授業的に世の中の話題になっていることを掘り下げて考える会を開催している。今日は東日本大震災で被災した福島県を応援しているいくまさ鉄平さんを迎えて「どうして原発が福島へできたのかを」顕彰したい。

いくまさ鉄平さん・・・支援の方法は物資の支援と心の支援があるが私は紙芝居で被災者を元気づけることにしました。原発は原子力の平和利用として広島で計画が進められようとしたのですが反対が多く断念しました。その後、過疎に悩む福島県の現地で実行されました。現地へ行き現地の人達とのふれあいの中で感じたことは原発の受け入れについては関心がなかったこと、原発を受け入れ原発に生活の糧を得たことに責任を感じているように思われた。

佐藤優さん・・・原発が広島に計画にされていたことをいくまさ鉄平さんから聞き、資料関係を調べると事実とわかりショックを受えました。



試写会風景



いくまさ鉄平さんと佐藤 優さんの対談

